

第19回 医療安全大会

患者確認の定着に向けた取り組み



2023年11月19日（日）

松戸市立総合医療センター：医療安全「患者確認」ワーキングチーム

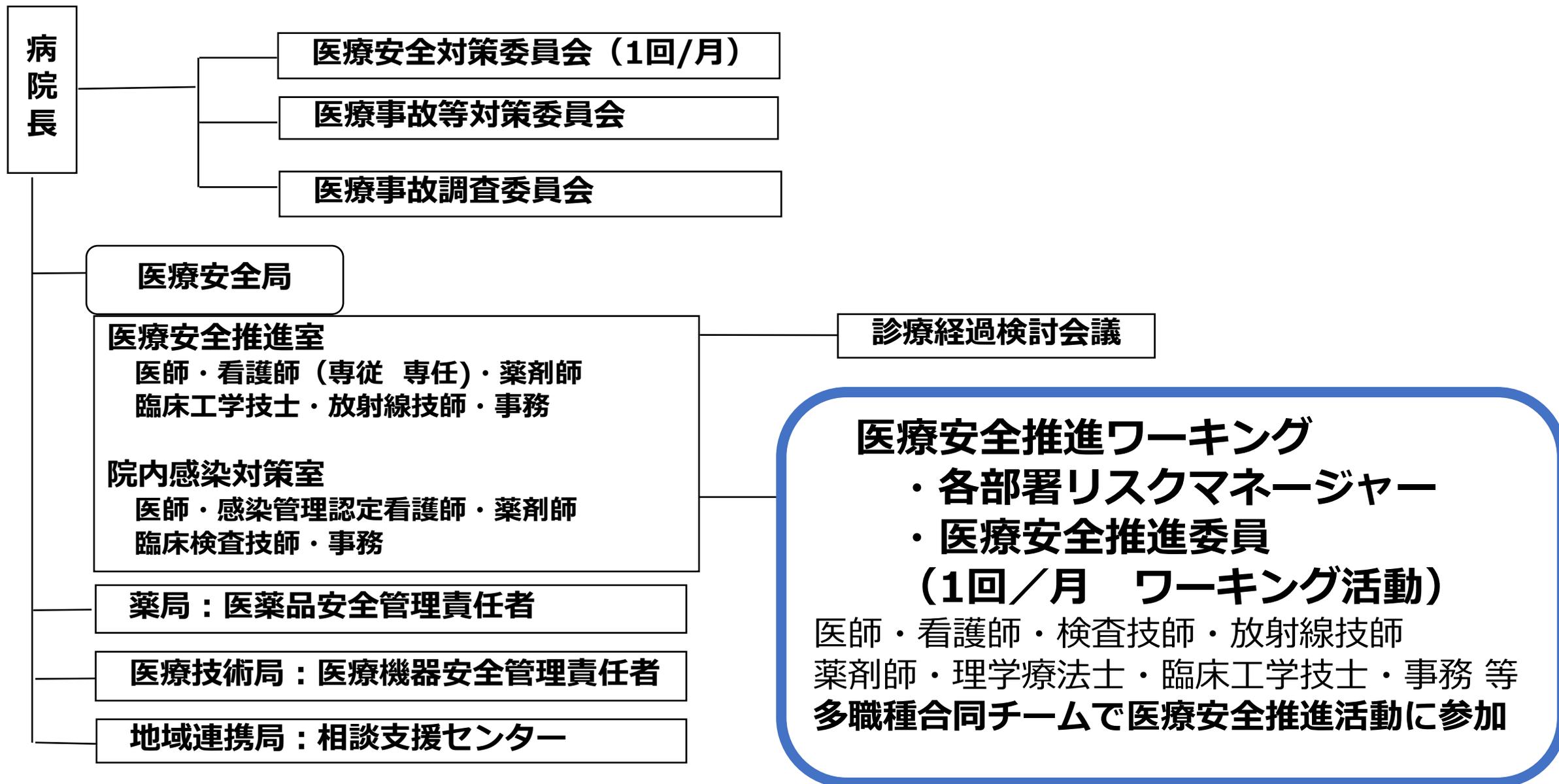
○ 多田祥子（HCU救命） 牛方孝子（外来Ⅰ） 嶋田亜矢子（5階東病棟） 市川天祐（診療局）
島川弓子（放射線科） 中島啓介（人事課） 砂田広子（外来化学療法室）

【松戸市立総合医療センター】

- ▶ 基本理念
すべての人に「来てよかった」と思われる病院を目指します。
- ▶ 所在地 千葉県松戸市
- ▶ 病床数 600床（一般病床592床・感染症病床8床）
- ▶ 診療科 32科
- ▶ 特色
災害拠点病院
日本医療機能評価機構認定病院
救命救急センター
地域周産期母子医療センター
地域医療支援病院
地域がん診療連携拠点病院



【医療安全に関する組織】



【患者確認 ワーキングチーム結成】

- ▶ 患者誤認インシデント報告数（2021年度）

106件（インシデントレベル0を除く）

- ▶ 発生要因

「患者確認」を怠ったことによる患者誤認が大半であった

- ▶ 目標

「患者確認」に対する意識向上と確実な定着

- ▶ 活動内容

2022年10月を「**患者誤認防止月間**」と命名し
職員および患者参画を目指したPR活動を実施

【活動内容①：院内放送】

▶ 対象

全職員・入院患者・外来受診患者

▶ 方法

毎日9時・13時に全館放送

(外来受診患者が多い時間帯・検査や処置が始まる前の時間帯)

▶ 放送内容

診察や検査を受ける時、薬の受け渡しの時など

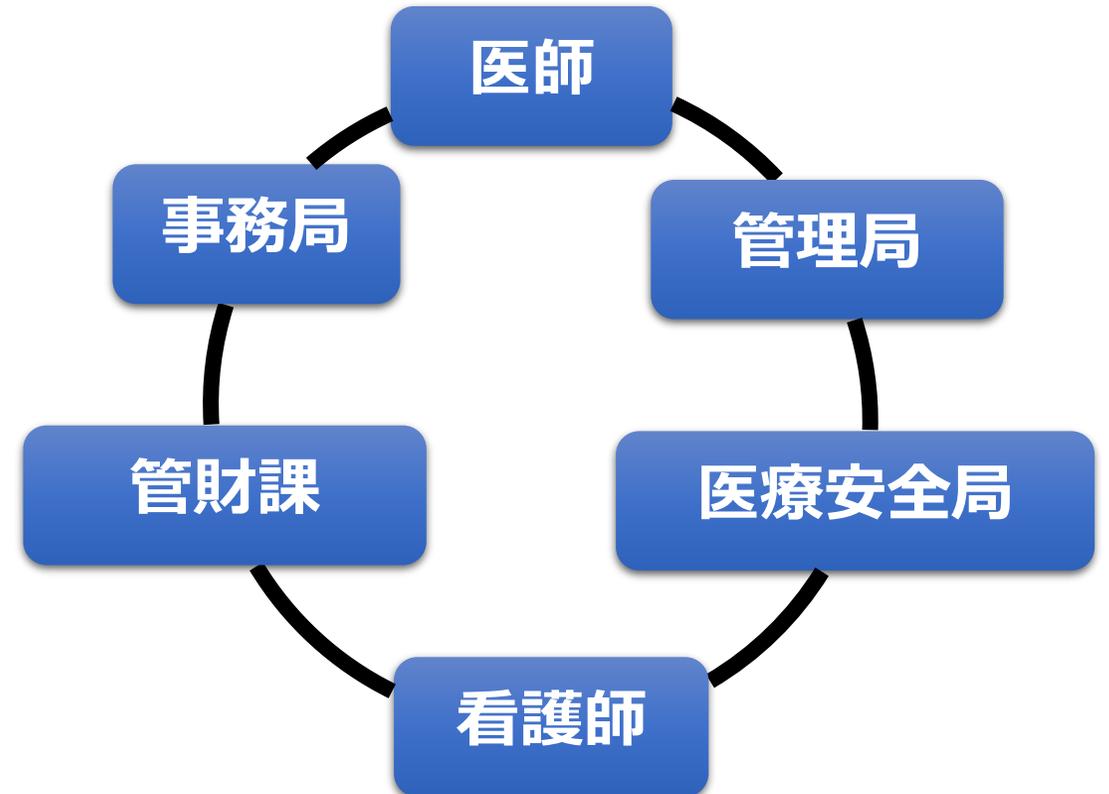
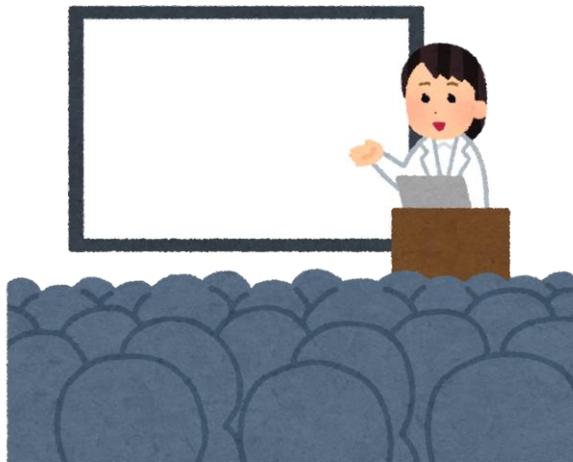
**本人確認のために職員がお名前（フルネーム）・生年月日を確認していること
患者自身にも、お名前（フルネーム）・生年月日をお答え頂きたいこと
書類を受けとった時、自身のものか念のため確認して頂きたいこと**



【多職種協働：院内放送】

管財課に協力を依頼するために

- ▶ 目的・方法・期待できる効果等プレゼンテーション
- ▶ 企画書作成
- ▶ 管理会議や運営会議で承認
- ▶ 放送用音源作成



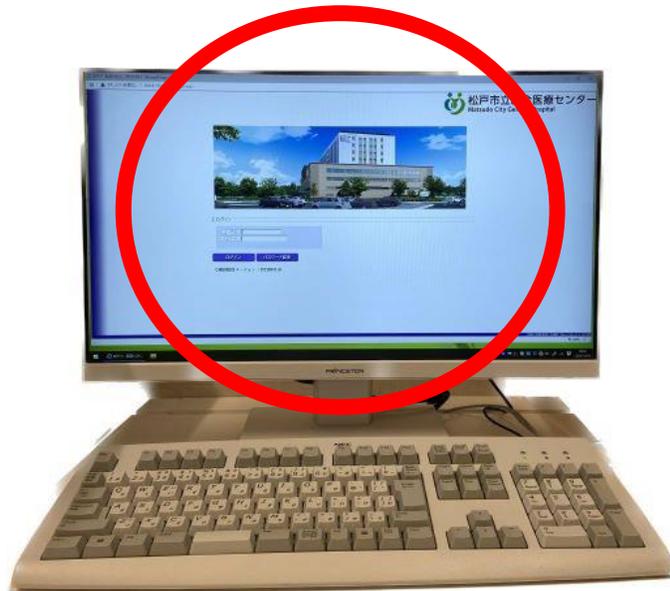
【活動内容②：電子カルテログイン画面変更】

▶ 対象

電子カルテを使用する職員

▶ 方法

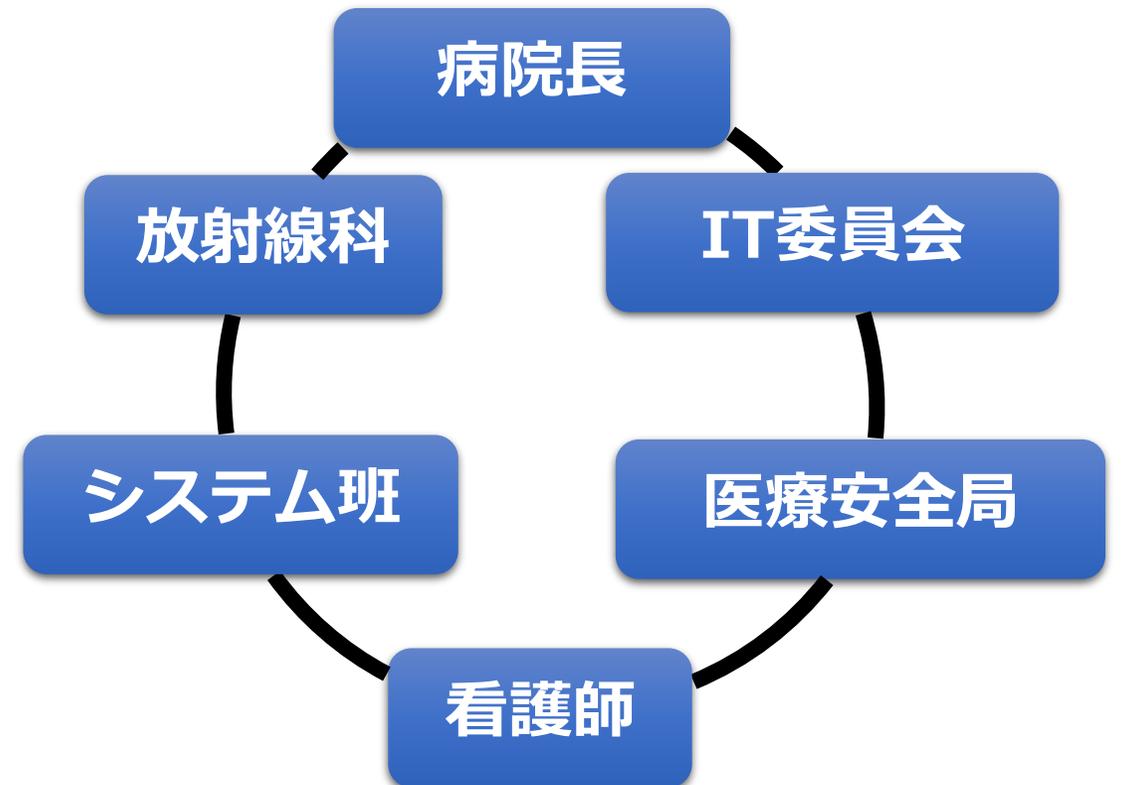
電子カルテログイン画面に
電子ポスターを表示



【多職種協働：電子カルテログイン画面変更】

システム班に協力を依頼するために

- ▶ 目的・方法・期待できる効果等プレゼンテーション
- ▶ 企画書作成
- ▶ IT委員会で承認
- ▶ 病院長の似顔絵を使った電子ポスター作成

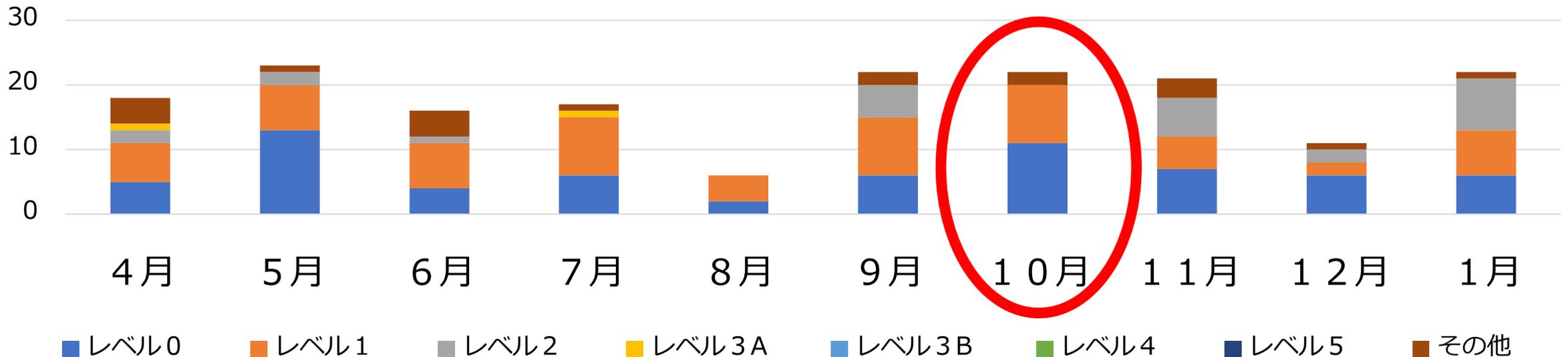


【成果①】

確実な患者確認により 患者誤認を未然に防止できた事例が増えた

- ▶ 活動期間中インシデントレベル2以上の患者誤認がない
- ▶ インシデントレベル「0」の報告件数が増加

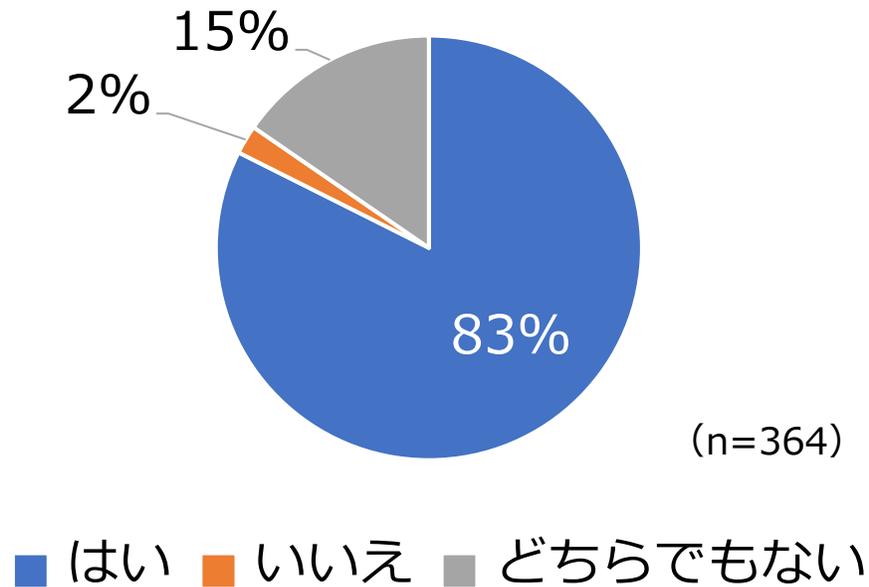
(単位：件)



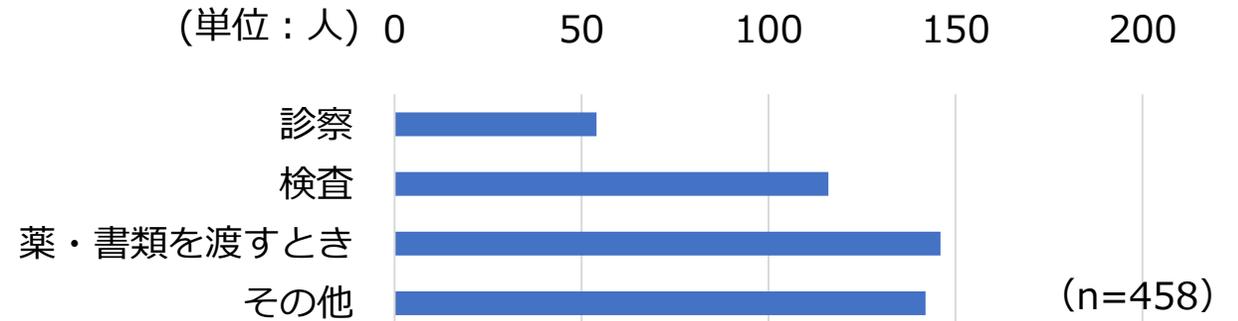
【成果②】

患者確認に対する職員の意識が向上した

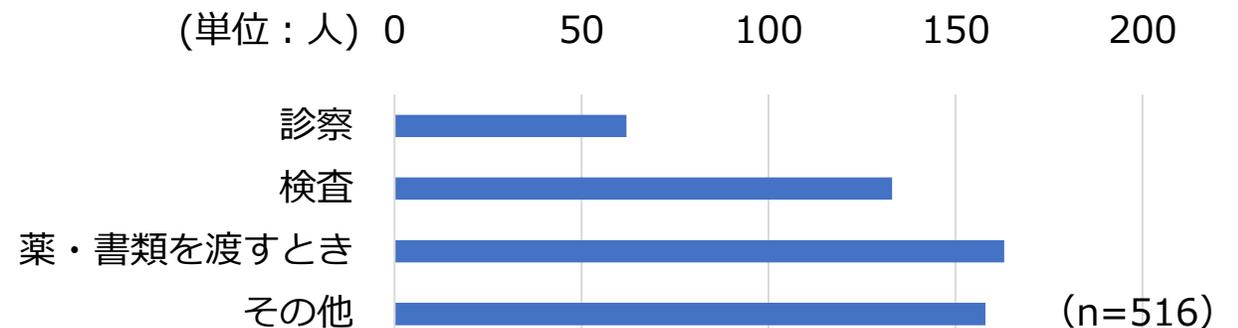
▶ 83%の職員が患者確認への意識が向上したと回答した



【電子カルテログイン画面で意識した場面】



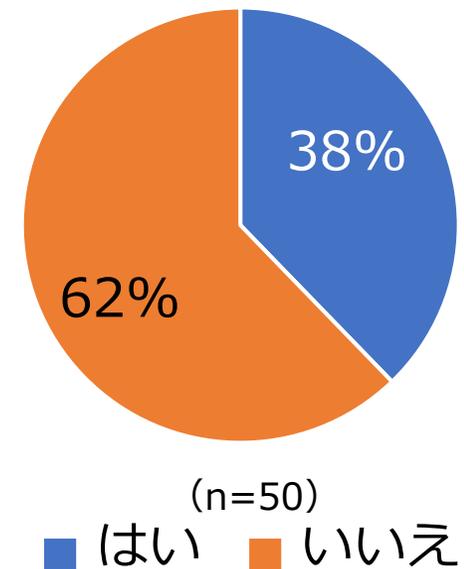
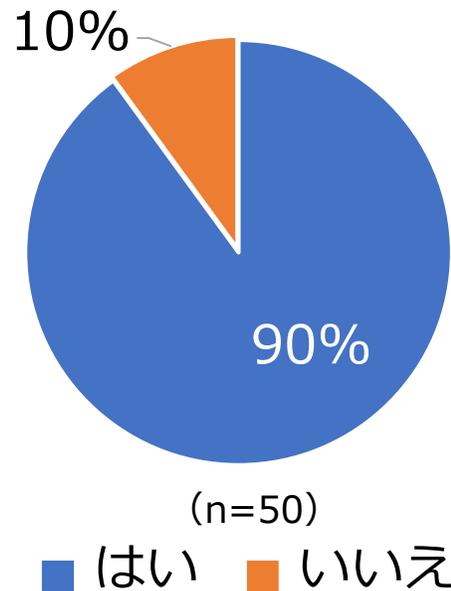
【院内放送で意識した場面】



【成果③】

患者自身が誤認防止に対して参画意識を持った

- ▶ 書類の受け渡し時に氏名を確認するようになったと90%の患者が回答
- ▶ 自身から氏名・生年月日を名乗ることがあると答えた患者が20%（前年度）から38%に増加



【まとめ】

- ▶ 多職種協働により個々の強みが発揮され
患者確認に対する意識向上を目指した**新しい取り組みを
病院全体で実現し、患者誤認防止に繋げることができた**
- ▶ 患者と共に医療安全に取り組むことにより
患者も力を発揮し、患者誤認防止に繋がった
- ▶ 職員・患者の「患者確認」に対する意識は向上したが
確実な定着には至らなかった
- ▶ **聴覚・視覚 同時に訴えかける**呼びかけは実効的であった

